

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道1-3-12		
自己評価作成日	平成29年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成29年 1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念の「人生楽しく、自分らしく」を地域の一員として捉えたとき、何をしたらよいのか、と常に考えます。町内の夏祭りや敬老会の参加、地域を巻き込んだ事業所でのイベント、キッズステーションとの交流、菊井中での認知症サポーター養成講座や学生さんの福祉体験、運動会の見学、幼稚園の焼き芋会や西陵高校認知症カフェへの参加など多くの行事がありました。住人様の為に席を準備し、声を掛けて頂き、温かく迎えて頂き、住人様の笑顔を見ると、来て良かったと嬉しくなります。また日頃から散歩した時や地域の店を利用また清掃時等挨拶や会話出来る場を増やし、住人様が地域の一員として楽しく、自分らしく、過ごせるように寄り添いたいと考えてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

12月に新管理者が着任し、新体制の構築に向けての取り組みを始めたばかりである。新管理者は、これまで介護職として勤務しており、利用者・職員とは顔馴染みであり、管理者交代による混乱もなく、職員からも全幅の信頼を得ている。
新管理者は法人理念「人生楽しく、自分らしく」を継承し、①利用者の楽しみを作る②家族との信頼関係の構築③利用者・職員が平等意識を持ち明るい生活を営む、を掲げて取り組んでいる。
移転して2年、地域交流に力を入れており、利用者一人ひとりが自治会に加入し、地域住民の一人として町内防災訓練等の地域行事に参加している。毎日の買い物や外出先で新しい馴染みの関係が築かれてきており、地域福祉の拠点としての役割を担って行くことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	菊井中学校の運動会観覧。幅下学区のお祭りや敬老会に参加。地域の児童福祉施設との交流。以前からお付き合いのある第三幼稚園の焼き芋会の参加。	法人理念を玄関・ユニットに掲示し、年1回の法人職員アンケートで振り返りを行っている。職員は理念を大切にしており、職員との会話の中からも自然に理念が発せられた。毎年個人目標を掲げ、評価も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物で地域のお店を利用している。ほぼ毎日行くので顔なじみとなり、ドアの開け閉めなど助けて頂いている。町内会長さんの奥様はイベントの時にも率先して御協力いただいている。	全員が自治会に加入し、地域行事に参加している。中学校の運動会には席が設けられ、ファッションショーへの参加や福祉体験の受け入れ、中学校の認知症サポーター養成講座の講師等、双方向の交流がある。	市から災害時の福祉施設の打診もあり、地域福祉の拠点として期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年に引き続き、菊井中学校で認知症サポーター養成講座を実施。好評をいただいております、すでに次の開催のお約束も頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様にほぼ毎回ご参加いただいている。地域でのグループホームの役割について率直なご意見を頂く中、直近の会議では災害時の協力関係についてご提案を頂いた。	いきいき支援センター・町内会長・民生委員・家族・利用者・児童福祉施設長・職員が参加し、年6回開催している。活動報告に続き継続課題について積極的な意見交換があり、サービスの質の向上に繋げている。	会議のメンバーとして知見者（他のグループホームの管理者等）の参加を促し、会議の内容の充実を図ってより多くの意見・助言を得て、サービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いきいき支援センターの職員様には地域運営推進会議のご参加を頂き、その際に近況についてご報告させて頂いている。	いきいき支援センター職員が運営推進会議に参加しており、随時ホームの状況は窓口に伝わっている。生活保護受給者が入居しており、区の担当者とは相談等連携に努め、年1回担当者が来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず、利用者様の外に出たいという願いを極力阻害しないようにしているが、スピーチロックを無意識のうちにやってしまう場合もある。人員の関係で外に出ようとする利用者様についていくことができない現状もある。	管理者・職員は身体拘束の弊害を理解し、玄関・ユニット間の施錠はなく、スピーチロックの研修を行って職員の意識付けを行っている。家族からの強い要望によりベッド柵があるが、管理者は家族の意識の改革にはまず信頼関係を築くようにしている。	家族との信頼関係を構築し、身体拘束による弊害を説明し、身体拘束をしない工夫や取り組みについて方針を示し、家族の納得を得て身体拘束をしないケアの実践を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いも含めて、目に見えない虐待になっていないだろうか、管理者から面談の際に考える機会をもらっている。あざ、傷についてはすぐに報告を挙げ、管理者が把握できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している利用者様がいる。月に一度の来館の折に利用者様のご様子をお伝えしているが、職員すべてが権利擁護の意味を把握できていないと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の担当者、管理者、ケアマネが中心となり説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を承るようにしているが、定期的に利用者様やご家族からアンケートを取り、職員に公表している。	法人全体の家族会を年1回開催している。家族面会時には利用者の状況を伝え、家族の意見・要望を聞くように努めている。音信不通の利用者家族に「便り」を送り続け、疎遠の親子の対面が実現した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議では職員が発言できる機会を設けている。管理者面談でも意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回ユニット会議はあるが、意見・要望や相談等は何でも何時でも言える関係が構築されている。「利用者・職員合同忘年会」や「利用者が化粧して外出する女子会」は、職員の提案から実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の面談、自己評価表、アンケートなどを通し、個々の職員の目標や達成度を把握するように努めている。頑張った職員には能力給やボーナスでも評価している。法人には福利厚生部門があり、リゾート施設など利用できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられている。外部研修も周知されており、希望者が参加できるようシフト調整を行っている。初任者研修、実務者研修など資格取得の費用の助成も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コンソーシアムが毎月行われており日程が周知されている。他法人の職員との交流も計画中である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安な心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴することで、少しずつ信頼して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時の際には積極的に近づき、些細なことでも話していただける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントなどの情報や、ご本人のお話、ご様子から支援の方向を見極めています。やはり、ご本人から直接うかがうのが一番と考え、ゆっくりと環境に馴れて頂き、お気持ちを伺うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が得意とすることを中心に、日々の家事などを一緒に行っています。両手が不自由な方でもお話が得意で、他の利用者様の話し相手になってくださいます。足が不自由な方には座ったままできるように工夫しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由にご家族様が来館頂ける環境を整えています。ご家族様から支援について気が付かされることも多く、ご指摘には謙虚に耳を傾けるようにしています。ご家族様が食事支援を手伝って下さることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が気軽にお尋ね頂ける環境を整えています。スーパーで利用者様を見かけ、入居を知り訪ねて下さったこともあります。年賀状のあて名書きをお手伝いし、これまでの関係の継続を支援しています。	女学校時代の友人や昔からの友人等の訪問があり、喫茶店・外食・クラス会・通夜等に出掛けている。来訪時にはお茶・おやつを出し、ゆっくりして頂けるように気配りをして馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席はある程度決まっているものの、固定せず、いろんな方との交流が持てるようにしています。上下ユニット館の壁を作らず自由に交流が持てるようにしています。年始には利用者様が他の方の居室を訪ね、お酒を酌み交わしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルを病院で過ごすことになり退居となった利用者様をお尋ねし、ご葬儀にも参列させて頂きました。四十九日が過ぎ、ご家族様がご挨拶に来てくださった折には、ホームで過ごされた日々を撮りためたROMをお渡ししました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝はゆっくりと寝ていたいという利用者様のご意向を尊重したり、入浴も可能な時には夜に入って頂くこともあります。体調管理とのバランスを取りながらご本人のライフスタイルでお過ごしいただいています。	日常ケアの中で利用者の言葉を漏らすことなく聞き取り、余り喋らない利用者には笑顔で接し、利用者の表情や顔き等の小さな動き・口調・トーン等からも意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご本人のお話、ご家族様のお話から入居以前のご様子を知るようにしています。テレビの話題や歌、何気ない会話から以前のご様子をうかがったときはケア日誌に記録し支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化するものであることを忘れず、その日のご様子をスタッフ間で申し送り、どのように支援していくかを探っています。心身の状態に応じて支援は柔軟に変化させています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でカンファレンスを行い、ケアの方向をチームで考え決めています。その際はご本人やご家族の意向を考えるようにしています。医療、リハビリの意見も取り入れるようにしています。	更新時・状態変化時に利用者・家族の意見・要望を聞き、職員意見を集約してユニット会議で検討している。毎月計画作成担当者がモニタリングを行い、必要に応じて家族を含めたサービス担当者会議を開催している。	管理者・計画作成担当者は共に個別ケアの意識は高く、思いを聞き取り実践している。しかし、介護計画への反映は少なく、その人らしさの感じられる計画の作成を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌をご本人のご様子と、職員のケアや気づきの2つに分け、職員の気づきや工夫を情報共有できるようにしています。その情報はカンファレンスやケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まりきった定番のレクリエーションの時間はあえて設けず、喫茶店の同行、買い物の同行、カラオケ機材を使った歌の時間など、職員が利用者様のニーズにアンテナを張り可能な限りお応えできるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理髪店、なじみの近所のスーパーに買い物に行く等地域資源を生活の一部として活用しています。ただ、まだまだ移転後の地域資源の把握には課題が残っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の往診時に、ご本人のご様子を医師、薬剤師、看護師にお伝えし、ご本人も心配事などを相談に乗って頂きご納得のいく医療を受けられるように支援しています。	現在全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。週1回の訪問看護、歯科・眼科(随時)がある。他科受診には協力医からの紹介状にて家族対応であるが、柔軟に対応して送迎のみ職員対応もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度専属の看護師が入り、一人一人の利用者の健康状態を把握しているので、管理者、職員は利用者様の近況について報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の基本情報を速やかに病院へ提示できるようにファイルに準備している。入院中は定期的に病院へ出向き、ご本人のご様子を担当医師、看護師から伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度、可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療、介護連携し、ご本人らしく終末期を迎えて頂けるよう取り組んでいる。	訪問看護が24時間対応であり、医師とは協力体制が出来ている。重度化に伴って利用者・家族の意思確認を行うとともに話し合いを重ねて方針を決めている。今まで2事例の看取りを行い、できるだけ家族の希望に添うように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成。常時見えるところに掲示。ユニット会議などで演習を行っている。AEDの操作についても法人の担当者が講習を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤時を想定した訓練や、シーツを使った簡易担架の訓練など、現実味のある訓練を行っている。地域運営推進会議では、町内会長様より避難経路や避難場所について最新情報を頂いている。	年2回の避難訓練(日中・夜間想定)を実施し、通報・初期消火・避難訓練を実施している。職員が地域消防団員であり、担架作りや階段からの搬送等を指導している。地域の防災訓練に利用者・職員が参加している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関することなどは言葉かけに配慮し、失禁した時もご本人の尊厳を傷つけないようにしている。入浴支援、更衣支援、塗り薬を塗布する際にもプライバシーに配慮している。	トイレ・居室の戸閉めを励行し、トイレ誘導時は他の利用者に聞こえないように配慮している。利用者の情報が多い申し送りには特に気を付けている。利用者の呼称にも注意を払い、人格を尊重している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を選んで頂けるようにタンスから数枚お出ししてお聞きしています。おやつの時間に飲み物を数種類お出しし選んで頂くときもあります。選択できる機会を作ったり、思いをお聞きするような声掛けをしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴の順番など、大まかな流れはあるものの、基本的には利用者様のペースに合わせた支援を行っています。朝食はゆっくり遅めに起床して召し上がる方もおり、尊重するようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にはブラシやスタイリング剤を用意し、ご自分でおしゃれをして頂いたり、時にはメイクアップして女子会と称し喫茶店にケーキを食べに行くという企画を行いました。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁で食材を切ったり、フライパンで炒めたり利用者様と共に食事作りを行っています。	冷蔵庫の食材を見て、利用者と一緒に献立を決め、利用者と共に買い物に出掛けしている。利用者は、力量・希望に合わせて一連の調理動作に参加している。利用者の参加意欲が強く、職員が役割分配することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量、水分量を記録している。特に脱水状態に陥りやすい利用者様については、細かく水分摂取量の記録を付けている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者様については付き添い適時支援をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	褥瘡が発症しやすい利用者様については特に便秘、尿意の意思表示が無くともトイレの声掛けをして、なるべくトイレでの排泄を促しています。記録を見直し、排泄パターンを把握するようにしています。	トイレの回数の多い利用者には、トイレ近くの席や手すりに近い席を用意し、声掛けの回数を多くする等、利用者の動きを考えて座席を決めている。さりげない誘導や見守り支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お通じを促す食物繊維を多く含むメニューを考えたり、腹部のマッサージなどで薬だけに頼らない便秘の解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は体調や気持ちの状態に応じて臨機応変に対応しています。夜に入りたいとの希望があった時は状況によっては応じています。	日曜以外は毎日入浴準備があり、週3日を基本に入浴している。タオルを掛ける等羞恥心にも配慮し、1対1でくつろげる機会にはゆっくり話を聞いている。季節を感じる柚子湯等の工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人が基本的に決めておられます。就寝時間中は音や光に配慮し、安心して休息できる環境づくりに努めています。ほとんどの方が睡眠薬に頼らず入眠されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有しています。服薬の際の事故を防ぐ為に専用ボードや服薬管理表を用いています。定期処方薬の変更や頓服の服用時などは少しの変化も記録や申し送りをするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どて煮を作ることが得意な利用者様をお願いし、作って頂きました。普段は居室で過ごすことが多い方ですが、この時は嬉しそうにキッチンに立っておられました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「水族館に行きたい。ペンギンが見たい」と言っていた利用者様の願いをかなえるために誕生日の外出を計画し、12月に実行しました。	日常的に近隣に買い物や散歩を行っている。季節を感じる花見(桜・紅葉等)に出掛け、個別外出には野球観戦・競馬場・宝くじ購入・喫茶店等、利用者の望む場所に出掛けています。夫婦利用者に「夫婦でホテル」と題して食事に出掛ける外出が設けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物の際に個人の所持金から好きなものを買って頂いています。チョコレートや果物を自分のお金で購入し、他の利用者様やスタッフに分けているときは本当に嬉しそうです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々、妹様に電話をかけて欲しいと言われる利用者様がいます。その時は事務所の電話をお使いいただき通話を楽しんでもらいます。年賀状のあて名書きをお手伝いすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然光をふんだんに取り入れることのできるベランダに接しており、朝日や風を感じて頂いています。空調管理は必要ですが、外気も取り入れ音や光や気温から季節を感じていた大英ます。	採光も良く明るいリビングは清潔が保たれ、利用者と職員と一緒に掃除をしている。浴室には機械浴槽もあり、重度利用者也湯船に浸かることができる。壁面には利用者の写真や作品が掲示され、家庭的な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで一人でくつろいだり、席を代わって気の合う利用者様同士で談笑しておられます。ユニットを超えて他のフロアで過ごされる事もあります。狭い空間ではありますが思い思いに過ごせる環境づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が写経された般若心経を飾っている利用者様や、ご家族様が棚の上にご家族様の写真を飾っておられる方もおり、思い思いの部屋づくりをしておられます。なるべくなじみのタンスなどを持ち込まれることをお勧めしています。	馴染みの仏壇、筆筒、文机等が持ち込まれている。家族が毎回ポラロイド写真を撮り、思い出写真を掲示している居室、書道得意な利用者の写経が飾られている居室等、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示がデザイン化されていて、高齢者にはわかりづらいかもしれません。「トイレ、どこだった？」とよく聞かれます。工夫は必要と感じています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道1-3-12		
自己評価作成日	平成29年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念の「人生楽しく、自分らしく」を地域の一員として捉えたとき、何をしたらよいのか、と常に考えます。町内の夏祭りや敬老会の参加、地域を巻き込んだ事業所でのイベント、キッズステーションとの交流、菊井中での認知症サポーター養成講座や学生さんの福祉体験、運動会の見学、幼稚園の焼き芋会や西陵高校認知症カフェへの参加など多くの行事がありました。住人様の為に席を準備し、声を掛けて頂き、温かく迎えて頂き、住人様の笑顔を見ると、来て良かったと嬉しくなります。また日頃から散歩した時や地域の店を利用また清掃時等挨拶や会話出来る場を増やし、住人様が地域の一員として楽しく、自分らしく、過ごせるように寄り添いたいと考えてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	学区の行事参加や児童福祉施設との交流、また地元中学生の福祉体験受け入れなど積極的に行う事で、住人様がこの地に楽しく、自分らしく住めるように努めます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの店での買い物では、挨拶をかわし声掛けして頂き、地域にも少しずつ馴染んできています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年に引き続き、菊井中学校にて認知症サポーター養成講座を開催、好評を頂き、来年の開催も予定。また福祉体験の受け入れを毎年行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。町内会長様、民生委員、いきいき支援センター等参加。ホームの在り方等色々な意見を頂く。最近では災害時の協力体制についてご提案を頂く。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いきいき支援センターの職員様には地域運営推進会議の参加を頂き、近況報告させていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、住人様の帰宅や外出したい気持ちを出来る限り尊重します。また病院より骨折リスクがあるので歩行しないと言われても理解できず歩かれるのでヒッププロテクターの着用とリハビリとで歩行して頂いてます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いも含めて、目に見えない虐待になっていないだろうか、面談等も振り返る良い機会になっている。あざ、傷についてはすぐに報告を挙げ把握できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している利用者様がいる。月に一度の来館の折に利用者様のご様子をお伝えしているが、職員すべてが権利擁護の意味を把握できていないと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の担当者、管理者、ケアマネが中心となり説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を承るようにしているが、定期的に利用者様やご家族からアンケートを取り、職員に公表している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議では職員が発言できる機会を設けている。管理者面談でも意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の面談、自己評価表、アンケートなどを通し、個々の職員の目標や達成度を把握するように努めている。頑張った職員には能力給やボーナスでも評価している。法人には福利厚生部門があり、リゾート施設など利用できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられている。外部研修も周知されており、希望者が参加できるようシフト調整を行っている。初任者研修、実務者研修など資格取得の費用の助成も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コンソーシアムが毎月行われており日程が周知されている。他法人の職員との交流も計画中である。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安な心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴することで、少しずつ信頼して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時の際には積極的に近づき、些細なことでも話していただける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントなどの情報や、ご本人のお話、ご様子から支援の方向を見極めています。やはり、ご本人から直接うかがうのが一番と考え、ゆっくりと環境に馴れて頂き、お気持ちを伺うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が得意とすることを中心に、日々の家事などを一緒に行っています。両手が不自由な方でもお話が得意で、他の利用者様の話し相手になってくださいます。足が不自由な方には座ったままで出来るように工夫しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由にご家族様が来館頂ける環境を整えています。ご家族様から支援について気が付かされることも多く、ご指摘には謙虚に耳を傾けるようにしています。ご家族様が食事支援を手伝って下さることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が気軽に尋ね頂ける環境を整えています。スーパーで利用者様を見かけ、入居を知り訪ねて下さったこともあります。年賀状のあて名書きをお手伝いし、これまでの関係の継続を支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席はある程度決まっているものの、固定せず、いろんな方との交流が持てるようにしています。上下ユニット館の壁を作らず自由に交流が持てるようにしています。年始には利用者様が他の方の居室を訪ね、お酒を酌み交わしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルを病院で過ごすことになり退居となった利用者様をお尋ねし、ご葬儀にも参列させて頂きました。四十九日が過ぎ、ご家族様がご挨拶に来てくださった折には、ホームで過ごされた日々を撮りためたROMをお渡ししました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝はゆっくりと寝ていたいという利用者様の意向を尊重したり、入浴も可能な時には夜に入って頂くこともあります。体調管理とのバランスを取りながらご本人のライフスタイルでお過ごしいただいています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご本人のお話、ご家族様のお話から入居以前のご様子を知るようにしています。テレビの話題や歌、何気ない会話から以前のご様子をうかがったときはケア日誌に記録し支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化するものであることを忘れず、その日のご様子をスタッフ間で申し送り、どのように支援していくかを探っています。心身の状態に応じて支援は柔軟に変化させています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でカンファレンスを行い、ケアの方向をチームで考え決めています。その際はご本人やご家族の意向を考えるようにしています。医療、リハビリの意見も取り入れるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌をご本人のご様子と、職員のケアや気づきの2つに分け、職員の気づきや工夫を情報共有できるようにしています。その情報はカンファレンスやケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まりきった定番のレクリエーションの時間はあえて設けず、喫茶店の同行、買い物の同行、カラオケ機材を使った歌の時間など、職員が利用者様のニーズにアンテナを張り可能な限りお応えできるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理髪店、なじみの近所のスーパーに買い物に行く等地域資源を生活の一部として活用しています。ただ、まだまだ移転後の地域資源の把握には課題が残っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の往診時に、ご本人のご様子を医師、薬剤師、看護師にお伝えし、ご本人も心配事などを相談に乗って頂きご納得のいく医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度専属の看護師が入り、一人一人の利用者の健康状態を把握しているので、管理者、職員は利用者様の近況について報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の基本情報を速やかに病院へ提示できるようにファイルに準備している。入院中は定期的に病院へ出向き、ご本人のご様子を担当医師、看護師から伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度、可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療、介護連携し、ご本人らしく終末期を迎えて頂けるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成。常時見えるところに掲示。ユニット会議などで演習を行っている。AEDの操作についても法人の担当者が講習を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤時を想定した訓練や、シーツを使った簡易担架の訓練など、現実味のある訓練を行っている。地域運営推進会議では、町内会長様より避難経路や避難場所について最新情報を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や失禁時はご本人の尊厳を傷つけないように言葉かけや、人の目に触れないように配慮しています。また入浴、更衣支援など常にプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事で食べたい物を聞いたり、又一緒にスーパーで選んだりします。またおやつ飲み物を選択して頂く時もあります。そして何気ない会話の中で言われたご本人の想いを、聞き逃さないようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ、入浴など1日の流れはおおよそ決まっていますが、住人様の意思を尊重したり、ペースに合わせた支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女子会と称しマニキュアや化粧をして喫茶店にケーキを食べに行く、という企画をしました。洗面台の前で鏡を見ながら髪をとく姿はよくみうけられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁で切ったり、炒めたり、味見や盛り付け、また食器洗いや拭いたり、住人様と一緒に楽しく行えるように心掛けてます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量、水分量を記録し、対応しています。また食事のメニューを記録し、バランスを考えた食事作りをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや支援を住人様各々に合った支援をしています。歯ブラシ、スポンジブラシを使い分けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便意、尿意が無くても声掛けをして、なるべくトイレでの排泄を促しています。また記録を見直し、排泄パターンを把握するようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お通じを促す食物繊維、「おなかのせんい」を使用したり、腹部のマッサージをしたり、薬に頼らない便秘解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日はありますが体調、失禁時、など時間や日はその都度変更しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は基本にご自分で決められ、遅くても夜10時頃には声掛けし、就寝されます。温度、音、光に配慮しています。また昼寝等自由に居室にて休まれ、介助の必要な方は声掛けします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有しています。特に血圧、排便、の薬は主治医や看護師の指示を頂きながら、服薬していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、花の世話、カラオケ、食事の手伝い、テレビ鑑賞、など好きな事が出来るように、声掛け、見守り、時には一緒に行きます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	回転寿司、デニーズは住人様全員で、いちご狩り、ホテルビュッフェ、水族館、は個別で外出。住人様の希望を少しでも叶えられるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方はご家族様とも相談し、預り金を渡し、ご自分で支払いをしていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にへの電話希望が有る時はリビングにてかけていただいています。また手紙の宛名書きや切手の購入支援をしたり、出来ない所はお手伝いします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりよく、温度や光ををカーテン、エアコンで調節します。また、戸を開け、換気をおこないます。クリスマスではツリー、を皆で飾り、玄関からエレベーター内まで全館クリスマスカラーでした。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで一人くつろいだり、席を代わって気の合う住人様同士談笑したり、又他のフロアの方とも交流を持ったりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや鏡台などでできれば馴染みの品を持参いただいています。またご家族様との外出時の写真を貼り、日記をつけて、日々の出来事を忘れないようにご家族様と協力しておこなっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室がわかりづらく迷われる時が、まれにあります。		